

マス類の県内需給状況調査

とりまとめ：小澤 諒

本調査は全国養鱒技術協議会提出資料として、県内の養鱒関係者に種苗生産状況を聞き取り調査し、取りまとめたものである。調査内容は、種卵生産量(普通魚・バイテク魚)・種苗生産量(普通魚・バイテク魚)・河川湖沼への放流用種苗数・埋没放流出荷卵数・普通魚の種卵種苗価格・バイテク魚の種卵種苗価格である。このうち、年間種卵生産量、年間種苗生産量、河川・湖沼放流用種苗出荷量、埋没放流用出荷卵数を以下に示した。

1 今回調査した養鱒経営体数

今回調査した経営体は32経営体であった。

2 県内の生産量

平成28年の年間種卵生産量(表1)、年間普通種苗生産量(表2)、河川・湖沼放流用種苗出荷量(表3)、埋没放流用出荷卵数(表4)は次の表に示すとおりであった。

表1 年間種卵生産量

単位(万粒)

魚種名	普通卵				計	バイテク卵		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		全雌2倍体	全雌3倍体	計
ニジマス		440	330	461.2	1,231.2		55.2	55.2
ヤマメ		0.5	30	148.5	179			
イワナ				234	234			
アマゴ				101	101			
ヒメマス			24.1		24.1			
ブラウントラウト	3.3			15	18.3			
カワマス				2.5	2.5			
アメマス				2	2			
スチールヘッド				4	4			
サクラマス			5.6		5.6			
オショロコマ				1	1			
カットスロート				1	1			
イトウ	0.6	0.2			0.8			

表2 年間普通種苗生産量

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	951.8
ヤマメ	149.1
イワナ	107
アマゴ	72.5
ヒメマス	32.2
ブラウントラウト	8.5
カワマス	2.8
アメマス	0.8
スチールヘッド	4
サクラマス	2.1
オショロコマ	0.8
カットスロート	0
イトウ	0.1

表3 河川・湖沼放流用種苗出荷数

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	11.4
ヤマメ	24.7
イワナ	18
アマゴ	47.4
ヒメマス	39.9
ブラウントラウト	0.2

表4 埋没放流用出荷卵数 単位(万粒)

魚種名	年間放流数
ヤマメ	13
イワナ	26

3 魚種別生産経営体数

魚種別養殖経営体数と種苗生産経営体数は表5に示すとおりであった。

表5 魚種別養殖経営体数と種卵生産経営体数

魚種名	養殖経営体数	種卵生産経営体数 (%)
ニジマス	19	5(26.3)
ヤマメ	16	10(62.5)
イワナ	14	8(57.1)
アマゴ	10	4(40)
ヒメマス	5	2(40)
ブラウントラウト	4	2(50)
サクラマス	3	1(33.3)
カワマス	1	1(100)
アメマス	1	1(100)
スチールヘッド	1	1(100)
オショロコマ	1	1(100)
カットスロート	1	1(100)
イトウ	2	1(50)

4 種卵生産量と種苗生産量の経年変化

(ニジマス)

平成28年の種卵生産量は前年比490.5万粒(28.5%)減の1,231.2万粒、種苗生産量は前年比0.1万尾(0.01%)減の951.8万尾であった。

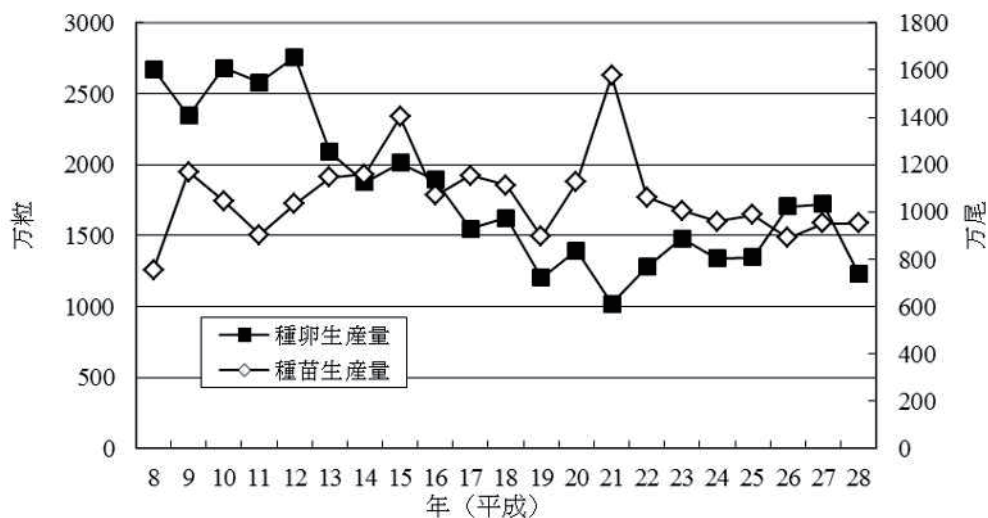


図1 ニジマスの種卵・種苗生産量の経年変化

(ヤマメ)

平成28年の種卵生産量は前年比1万粒(0.6%)減の179万粒、種苗生産量は前年比7万尾(4.9%)増の149.1万尾であった。

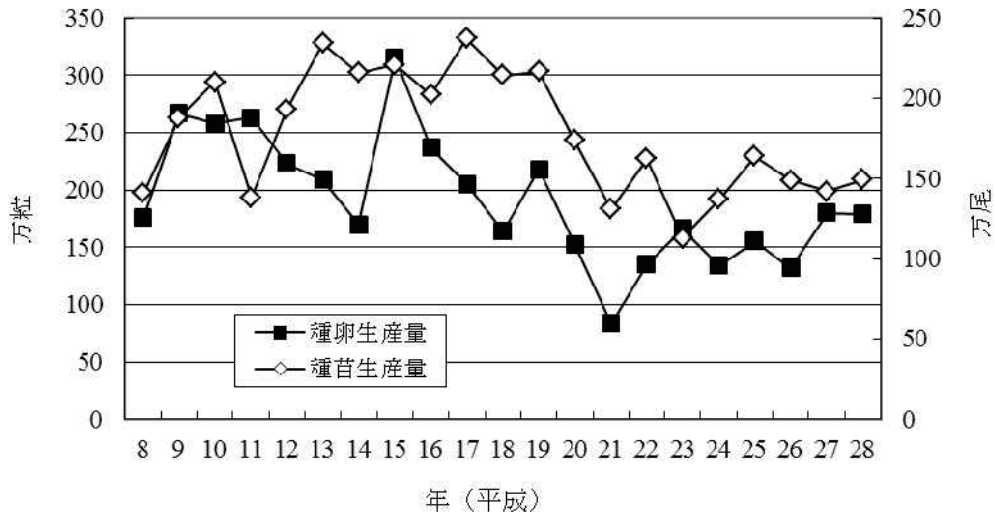


図2 ヤマメの種卵・種苗生産量の経年変化

(アマゴ)

平成28年の種卵生産量は前年比41.8万粒(70.6%)増の101万粒、種苗生産量は前年比3.4万尾(4.9%)増の72.5万尾であった。

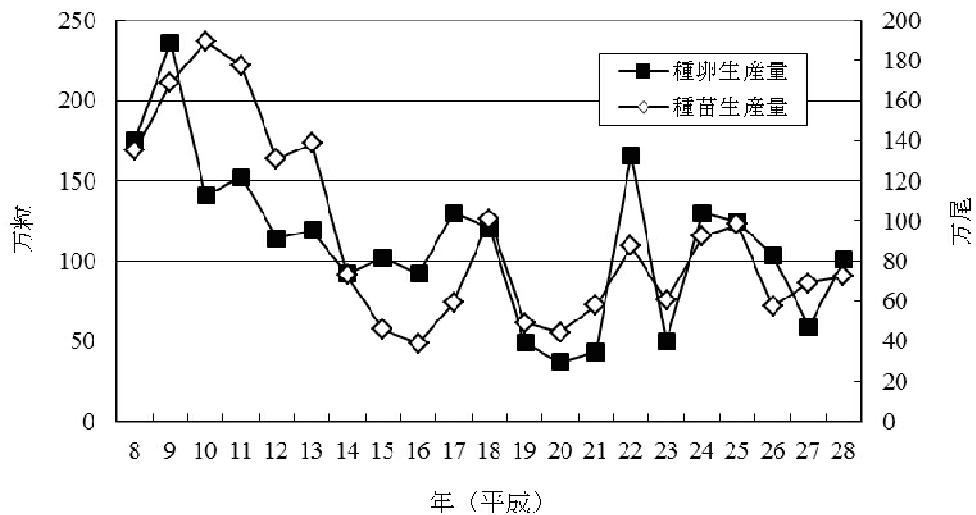


図3 アマゴの種卵・種苗生産量の経年変化

(イワナ)

平成 28 年の種卵生産量は前年比 10.5 万粒 (4.7%) 増の 234 万粒, 種苗生産量は前年比 54.3 万尾 (33.7%) 減の 107 万尾であった。

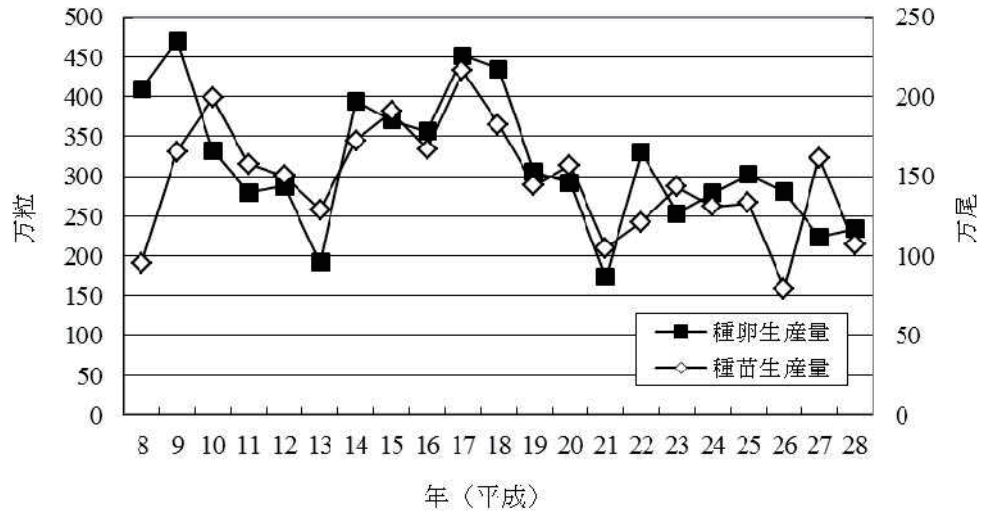


図4 イワナの種卵・種苗生産量の経年変化